

アイヌの伝統的生活空間の再生に関する事業実施計画（平成18年度）（案）

1. 目的
2. 地域
3. 推進体制
4. 実施内容
 - (1) 空間の活用等
 - (2) 自然素材の育成
 - (3) 空間において実施される活動
 - (4) その他
5. 予算
(参考)

1. 目的

平成18年度においては、「アイヌの伝統的生活空間の再生に関する基本構想」及び「アイヌの伝統的生活空間の再生に関する実施要領」に基づき、アイヌの伝統的生活空間の再生の本格的な展開に向けて、先行的な実施地域において、具体的な取組みに着手し、空間の形成及び活用、空間の運営管理、自然素材の育成等の事業を実施することにより、アイヌの伝統的生活空間の再生を進める上で解決すべき課題や改善点を明らかにし、空間の運営管理方法等の確立を図るとともに、実施地域におけるアイヌの伝統的生活空間の再生を推進することを目的とする。

2. 地域

平成18年度においては、白老地域において先行的に事業を実施する。

3. 推進体制

アイヌ文化振興等施策推進会議が全体的な監理を行う下で、財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構が事業主体として、白老町、アイヌ文化伝承活動実践者やアイヌ文化に関わる団体・個人等の協力を得て事業を実施するものとし、地域における事業の実施に当たっては、必要な事業を白老町に委託する。

白老町に事業の運営管理のための事務局を置き、この事務局は、財団法人アイヌ民族博物館等の協力を得て、地域における事業の運営管理に関する事務を行う。

樹木や植物の植栽については、林野、土壌、有用植物等に関する専門機関、林業・農業改良普及員又は学芸員、アイヌ文化伝承活動実践者などの指導及び協力を得て、実施する。

また、アイヌ文化振興等施策推進会議構成機関は、相互に連携を図るとともに、必要に応じて、関係機関の協力を求める。

4. 実施内容

- (1) 空間の活用等
 - ア) 空間活用方策に関する調査

白老地域における具体的な取組みの推進に資するため、土地利用や必要な設備・施設等に関する調査を実施する。

調査の実施については、業務内容を適切に実施することが見込まれる機関に委託する。

イ) 空間の形成

(植栽地区)

①ポロト自然休養林地区

ポロト自然休養林地区において、オヒョウ等の樹木を植栽する。

植栽に当たっては、白老地域の生態系に十分配慮するとともに、シカによる被害防止のため、柵、ネット等による対策を講じる。

なお、植栽については、森林管理署との契約に基づき、林野庁所管の「木の文化を支える森づくり事業」として、実施する。

②陣屋地区及びヨコスト地区

陣屋地区において、ガマ等の水生植物を植栽する。

ヨコスト地区において、ハマボウフ等の海浜植物を植栽する。

植栽に当たっては、白老地域の生態系に十分配慮する。

(試験栽培地区)

ポロト地区において、オヒョウ等の樹木、エゾスカシユリ等の植物を試験栽培する。

森野旧苗畑地区において、オヒョウ等の樹木、アワ等の穀物を試験栽培する。

両地区における植栽に当たっては、白老地域の生態系に十分配慮するとともに、シカ、カラス・野鳥、野ネズミ等による被害防止のため、柵、ネット等による対策を講じる。

ウ) 採取又は採捕のための空間の設定

竹浦地区及び石山地区（樹木や草本、水生植物、動物等の採取や採捕）、社台地区（サケ等の採捕）において、自生する樹木や植物の採取又は生息する動物等の採捕を必要に応じて行うことができる空間を設定する。

エ) 空間の運営管理

空間を効果的に活用するため、空間の運営管理に関する課題等を把握し、運営管理方策の確立を図ることを目的として、空間の運営管理を試行的に実施する。

空間の活用については、樹木等の植栽を実施する地区及び採取又は採捕のための地区から入手される自然素材を活用し、その入手から、配分、利用、加工、調製、保存等の一連の工程を試行することにより、伝承活動等を実施する。

また、これらの試行を通じて、自然素材の活用の一連の工程に携わる人材の育成を図るとともに、樹木や植物等の管理については、今後、地域における事業の運営管理のための事務局に代わり、アイヌの人々が中心となって運営管理に関する事務の一部を担う体制を整備するため、その検討及び試行を行う。

(2) 自然素材の育成

植栽地区及び試験栽培地区において、自然素材の育成を図るとともに、生育状況の把握を通じて、自然素材の育成のための手法等の確立に向けた検討を行う。

なお、自然素材の育成に当たっては、イオル再生等アイヌ文化伝承方策基礎調査（平成15年度及び16年度：財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構）やその他の白老地域における植物等に関する調査の結果等を踏まえつつ、白老地域の生態系に十分配慮する。

また、採取又は採捕のための空間においては、自生する樹木や植物の採取又は生息する動物等の採捕が円滑に行える空間を維持できるよう、その生育状況等に十分配慮する。

(3) 空間において実施される活動

空間の運営管理や自然素材の管理等のほか、体験交流等の事業の実施のために必要な人材の育成についての検討、情報収集等を行う。

水産動物の採捕や鳥獣等の捕獲、国有林野内での植栽、河川区域内の行為などに関する規制緩和や許可について、事業の推進を図る観点から、有効な措置について検討を行うとともに、規制緩和等の実現を図る。

(4) その他

ア) 実施状況の検証

白老町は、地域における事業の実施状況について取りまとめ、財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構に報告する。

財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構は、事業の実施状況について検証を行い、その結果をアイヌ文化振興等施策推進会議に報告する。

アイヌ文化振興等施策推進会議は、事業の効果的な推進を図る観点から、アイヌの伝統的生活空間の再生事業運営諮問委員会の意見を聴きつつ、事業の実施状況について検討を行う。

イ) ネットワークのあり方に関する検討

アイヌ文化振興等施策推進会議は、アイヌの伝統的生活空間の再生事業運営諮問委員会の意見を聴きつつ、アイヌの伝統的生活空間の再生における複数の空間によるネットワークのあり方について検討を行う。

ウ) その他関連する事業の活用

本事業の効果的な推進を図る観点から、財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構が実施する他の事業のほか、関連する事業等の活用を図る。

5. 予算

(千円)

事項	予算額	
空間活用等	19,550	
空間活用調査	9,300	空間活用調査委託
空間形成	10,250	植栽材料購入、植栽環境整備等
空間運営管理	9,763	事務局運営
自然素材育成	20,682	
試験栽培	12,506	試験栽培用植栽材料購入、植栽環境整備等
育成環境整備等	8,176	試験栽培地造成等
計	49,995	

《参考 1》植栽地区及び試験栽培地区

1. 植栽地区

地区	概況	植栽の概要（平成 18 年度）
ポロト自然 休養林地区	国有林 4. 35 ha	○樹木を継続的に植栽・育成 （森林管理署との協定による「木の文化を支える森づくり事業」） ○樹木：10種 1490本 ・オヒョウ 240 ・シナノキ 200 ・キハダ 200 ・ミズキ 200 ・カツラ 200 ・エゾニワトコ 150 ・イチイ 50 ・ハリギリ 100 ・ハルニレ 100 ・ハシドイ 50
陣屋地区	陣屋跡地堀内及び旧ウトカンベツ古川内 300m（町有地）	○水生植物を継続的に植栽・育成 ○水生植物：4種 760株 ・ガマ 460 ・フトイ 100 ・ミクリ 100 ・サンカクイ 100
ヨコスト地区	海浜地 0. 3 ha（国）	○海浜植物を継続的に植栽・育成 ○海浜植物：3種 500株 ・ハマボウフ 200 ・ハマヒルガオ 100 ・ハマナス 200

2. 試験栽培地区

地区	概況	植栽の概要
ポロト地区	白老振興公社所有地 5 ha	○樹木、ツル木・実のなる木及び野草を継続的に試験栽培 ○樹木：12種 405本 ・ハシドイ 25 ・イヌエンジュ 45 ・オヒョウ 40 ・エゾヤマザクラ 65 ・ノリウツギ 20 ・ハルニレ 35 ・シナノキ 25 ・ハウノキ 15 ・アオダモ 30 ・マユミ 10 ・カツラ 40 ・キタコブシ 55 ○ツル木・実のなる木：7種 110本 ・ツルウメモドキ 10 ・クロミノウグイスカグラ 50

		<ul style="list-style-type: none"> ・コクワ10 ・チョウセンゴミン10 ・マタタビ10 ・ミヤママタタビ10 ・ヤマブドウ10 ○野草：3種300株 ・エゾスカシユリ100 ・キンミズヒキ100 ・エゾリュウキンカ100
森野旧苗畑 地区	白老土地開発公社所有地4.2ha (旧白老営林署苗畑)	<ul style="list-style-type: none"> ○樹木及び穀物を継続的に試験栽培 ○樹木：15種500本 ・オヒョウ40 ・イヌエンジュ40 ・ハシドイ40 ・シナ40 ・ハリギリ30 ・キハダ40 ・エゾニワトコ30 ・カツラ40 ・ハルニレ30 ・マユミ30 ・ハウノキ30 ・アオダモ30 ・ヤチダモ30 ・キタコブシ30 ・エゾヤマザクラ30 ○穀物：3種 ・アワ ・ヒエ ・イナキビ

《参考2》採取又は採捕のための地区

地区	概況	自然素材
竹浦地区	<ul style="list-style-type: none"> ①町有林143ha ②町有防風林32ha ③旧敷生川河川敷地14ha (北海道：白老町に移管予定) 	<ul style="list-style-type: none"> ①及び②：樹木・草本・動物等 ③：アシ・ススキなどの水生植物
石山地区	<ul style="list-style-type: none"> ①町有林335ha ②町有牧場山林部195ha 	樹木・草本・動物等
社台地区	<ul style="list-style-type: none"> ①社台川流域(北海道) ②ヨコスト海岸(国) 	サケ等

《参考 3》 予算内訳 (平成 18 年度)

(千円)

事項	予算額	内訳
空間活用等	19,550	
空間活用調査	9,300	空間活用調査(委託)等 <u>9,300</u>
空間形成	10,250	①ポロト自然休養林地区 <u>9,390</u> 植栽材料購入 7,950 植栽環境整備等 1,440 ②陣屋地区・ヨコスト地区 <u>860</u> 植栽材料購入 150 植栽環境整備等 710
空間運営管理	9,763	事務局経費 9,763
自然素材育成	20,682	
試験栽培	12,506	①ポロト地区 <u>5,800</u> 植栽材料購入 5,300 植栽環境整備等 500 ②森野旧苗畑地区(委託) <u>6,706</u> 植栽材料購入 950 植栽環境整備等 5,756
育成環境整備等	8,176	試験栽培地造成等 <u>8,176</u> 資材等購入 4,000 運搬・整地等 3,506 事務費等 670
計	49,995	

資料4参考

白老町自然素材供給予定地区

